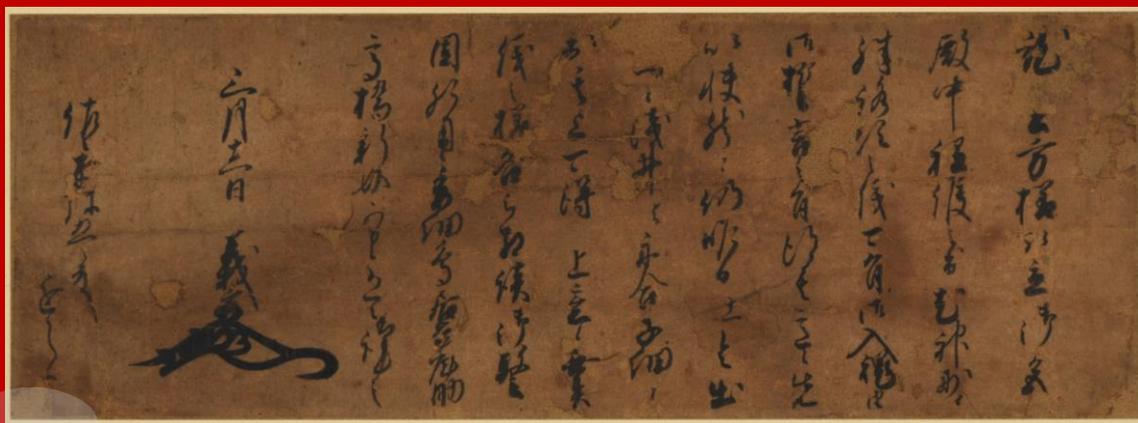


朝倉義景書状



あさみゆー

新収蔵展

2025 2.15(土)～3.9(日)

※2/17(月)、2/25(火)、3/3(月)は休館日

一乗谷朝倉氏遺跡博物館 **特別展示室**

《観覧料》基本展示観覧料でご覧いただけます。

《展示解説》2/15(土)、3/8(土)

各日15:30～16:00 申込不要

寄贈記念対談「朝倉のルーツを訪ねて」

日時:2月15日(土)13:30～ 申込不要・聴講無料

会場:分館講堂[あさみゆーホール]

対談:寄贈者×博物館館長

令和6年度は、5代当主朝倉義景が敦賀の陣中から出した書状1通の寄贈を受け、また、勇壮な鷹を描いた曾我直庵筆の架鷹図1幅を購入収集しましたので、収蔵初公開します。



あさみゆー



架鷹図 曾我直庵筆

あさみゆー 新収蔵展

資料解説

あさくらよしかげしよじょう

☆ 朝倉義景書状 <令和6年度 寄贈>

法量：縦11.0cm×横36.7cm 鳥の子紙 [斐紙] 切紙

5代朝倉義景が佐々木弥五郎（朽木元綱）に宛てて出した書状で、花押の形状、日付、文中の「昨日十一令出[馬カ]」の文言から、元龜4年（1573）3月11日に義景が敦賀へ出陣した翌日に出されたことがわかります。義景が朽木氏へ公方様（足利義昭）方として連携して行動する意志を伝えたもので、將軍足利義昭の意を受けて出馬した状況が知られる希少な原本文書です。

宛所の佐々木弥五郎は、近江湖西の朽木を領した佐々木氏の分流で、室町幕府の奉公衆を勤めた朽木元綱です。元綱は、元龜元年(1570)の金ヶ崎の戦いで、信長が浅井氏の裏切りにより背後を攻められ窮地に陥った際に、敦賀から京都へ退却するのを助けた、いわゆる「朽木越え」で知られています。しかし、足利義昭が信長と対立する立場を取ったときには、反信長方として朝倉氏と連携をとりました。また本状は、自ら出陣した朝倉義景が慎重に情報収集し進軍の機を伺っていた様子がかがえ、従来の出陣を洩る弱腰との評価とは異なる一面を示すものとして極めて貴重です。

翻刻

（足利義昭）

就 公方様被立御色

殿中祇候之旨尤神妙候、

殊路次之儀可有御入魂由

御誓言之旨得其意候、先

以快然候、仍昨日十一令出

（馬カ）

□候、浅井与示合子細候、

於其上可得 上意候、無異

儀之様各被相談御警

固肝用候、委細鳥居兵庫助

高橋新介可申候、恐々謹言

三月十二日 義景（花押）

（朽木元綱）

佐々木弥五郎殿

進之候

意訳

將軍義昭様が織田信長に色を立てられた（敵対されたこと）について、あなたも従われるとのこと、殊勝に思います。特に道中の通行の安全について御約束いただき大変安心しました。そこで昨日十一日に敦賀へ出陣しました。今後は浅井としっかりと詳細を確認しながら、義昭様の意向に従い行動します。問題ないよう皆で相談し、しっかりと警固しましょう。詳しくは使者の鳥居兵庫助（景近）と高橋新介（景業）が申し上げますので、よろしく願います。

かようず そがちよくあん

☆ 架鷹図 曾我直庵筆 <令和6年 購入>

法量：縦117.0cm×横48.0cm 紙本着色

曾我直庵の架鷹図です。曾我直庵は安土桃山時代から江戸初期にかけて堺を中心に活動した絵師で、朝倉氏のお抱え絵師曾我派の後継を名乗り、鷹図を得意としました。本作の上部には大徳寺126世の一凍紹滴の筆による画賛があり、架に緒でつがれながらも空を見上げる鷹の姿から、唐の崔鉉が作詩した七言絶句「咏架上鷹」を引いて「万里碧霄終一去 不知誰是解條人」と書かれています。

朝倉氏といえば、一族の武将・朝倉宗滴が、鷹を卵から育てる人工孵化に成功したとして『養鷹記』に記され、歴代当主も鷹狩を嗜み、鷹狩の獲物を贈り物にするなど鷹をめぐる文化活動が盛んでした。朝倉家中では越前敦賀が日本に初めて鷹狩りの技が伝播した由緒地であるとして鷹狩りの技が熱心に学ばれました。

☆ 参考展示資料

朝倉始末記 … 五巻の「義景敦賀進発之事」に、元龜4年3月の敦賀出陣が書かれています。

鳥居景近・高橋景業連署状 … 元龜4年3月19日に敦賀の陣中から出された連署状です。

千手観音立像 … 元龜4年3月の敦賀出陣の日付が彫られており、戦勝祈願の石仏と考えられます。

安波賀春日神社参詣図(縁起絵) … 様々な動物とともに、鷹のヒナのような鳥も描かれています。